Ⅱ　部門別活動報告

緩和医療科

緩和医療科長　平野 拓司

「いつでも、どこでも、その人らしく。」

“緩和ケア”は、以前は、『寿命が迫ってきた時』の『疼痛緩和』が主な役割でした。
しかし、現在の緩和ケアは、『診断された時からの全人的苦痛緩和』なのです。つまり、とにかく、『苦痛、つらさを、緩和する』のが“緩和ケア”と考えています。
『磐井病院　緩和医療科』では、終末期はもちろん、抗がん剤治療中などでも、苦痛を和らげるお手伝いを考えています。もちろん、“基本的緩和ケア”は、主治医の先生方によって行われておりますが、症状緩和に難渋する症例や、精神的な不安が強い患者さんについては、『緩和医療科』にも、ご相談いただければ、なにかお手伝いができるかもしれません。“患者さんのために”を主治医の先生を含めた、緩和ケアのチームで考えていきたいと思います。
人生の最終段階に、人はさまざまなつらさに直面すると思います。その時期をどのように過ごすかは、その人の、それまでの生き方を映しているのでしょう。『その人らしく』、を大切に、悩み、葛藤さえも、『その人らしさ』と考え、その苦しみに静かに寄り添えるよう、緩和ケア病棟・緩和ケアチームのスタッフ一同、日々、患者さんから学ばせていただきながら、診療に当たっております。
緩和ケア病棟でも一般病棟でも、自宅でも施設でも、地域の医療機関・介護施設などと連携しながらこの地域の緩和ケアを支えたいと思います。地域と連携しながら、状況に応じて当科からの訪問診療も行っております。
（なお、“緩和ケア”の考え方は、「がん」に限らないのですが、“緩和ケア病棟”は診療報酬上、現在は、「がん(悪性腫瘍)」（と AIDS。磐井病院では実績はありません)の患者さんに限定されています。）

＜診療実績＞（2024 年度(令和６年度)　2024/4/1～2025/3/31）
●緩和医療科外来
令和６年度の外来受診患者数は、のべ 817 名受診（１日平均 3.4 名/平日 243 日）
※新患患者数 18 名（うち、他院からの紹介 18 名(100.0%)）
●緩和ケア病棟
令和６年度入院数　入院患者数 224 名、退院患者数 196 名、うち死亡退院患者数 150 名、１日平均入院患者数 15.7 名
●緩和ケアチーム
令和６年度の新規依頼患者数　 78 名

緩和ケア病棟入棟希望・緩和医療科外来受診希望の場合
主治医の先生が紹介を希望された場合や、患者さんが受診を希望された場合
→　「磐井病院 地域医療福祉連携室」あてにご連絡ください。あるいは、直接担当医（平野拓司）宛にお気軽にご相談ください。

医療関係者の皆様へ
緩和ケア病棟の見学、緩和医療科での研修は、いつでもご連絡ください。ご相談の上、できるだけご希望に添って受け入れたいと思います。当院の緩和ケア病棟は「日本緩和医療学会認定研修施設」の指定を受けています。

呼吸器内科

呼吸器内科長　駒木　裕一

令和６年度も常勤医１名で外来、入院診療を行っております。

主として気道疾患(気管支喘息、COPD)、感染症(肺炎、胸膜炎、抗酸菌症など)、腫瘍(肺癌、胸膜中皮腫、胸腺癌など)の診療にあたっています。両磐地区で肺悪性腫瘍の診断、治療を行える施設が当院を含め限られており、症例が集中しています。

＜診療実績＞

・外来患者延数	6,764 名
・入院患者延数	6,695 名
・気管支鏡	132 件
・胸腔ﾄﾞﾚﾅｰｼﾞ	64 件
・胸腔穿刺	55 件
・化学療法	入院　60 件、外来　358 件

消化器内科

第１消化器内科長　横沢　聡

両磐医療圏域における急性期病院である当院において、当科は主に消化器領域急性期医療を担っており、腹部症状等で当院を救急受診された患者さん、各種がん検診で要精査となった患者さんに対する内視鏡検査等の二次精査目的に受診された患者さん、そして他施設や院内他科から精査加療目的に紹介となった患者さん等を中心に、消化器領域疾患の診断および内科的治療を積極的に行っております。

また当院は「がん診療連携拠点病院」を標榜しておりますが、その中で当科は消化器癌診療の礎である診断を行い、更に内視鏡治療を中心とした低侵襲治療や化学療法などの治療も積極的に行っており、早期食道癌、早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や胆管癌や膵癌に対する内視鏡的逆行性胆管造影法（ERCP）による術前精査や閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆管ドレナージ、更に消化器癌に対する化学療法など、外科とともに当院の消化器癌診療における中心的役割を担っております。

さらに当科の特色として炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の診療にも積極的に取り組んでおり、大腸内視鏡検査や小腸カプセル内視鏡検査、小腸造影検査などの各種検査による炎症性腸疾患の精査・診断を行っております。治療においては、5-アミノサリチル酸製剤やステロイド製剤などの基本治療薬から抗 TNF-α 抗体製剤などの分子標的薬に至るまで、患者様の病態に応じて種種の治療薬を使い分けて治療を行っております。

また、胆膵領域では ERCP 関連手技による精査、治療に加えて超音波内視鏡観測装置及びコンベックス型超音波内視鏡、更に最新型の胆道鏡である SpyScope™ DSⅡを整備しており、膵腫瘍あるいは消化管粘膜下腫瘍に対する超音波内視鏡ガイド下穿刺細胞診（EUS-FNA）、胆道癌手術例における胆道鏡下生検を用いた病変範囲診断や総胆管結石に対する電気水圧衝撃波胆管結石破砕術（EHL）などを行っております。

当院は日本内科学会認定研修施設、日本消化器病学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会認定研修医施設、日本消化管学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設であり、各種学会の研修プログラムに則りながら専攻医研修を行っており、後進の育成も積極的に行っております。

＜診療実績（令和６年４月～令和７年３月）＞

入院患者延数　12,776 人

外来患者延数　14,707 人

おもな検査、治療件数

上部消化管内視鏡検査　2,358 件

下部消化管内視鏡検査　1,269 件

超音波内視鏡検査　175 件

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）　36 件

消化管ステント留置術　37 件

内視鏡的逆行性胆管造影法（ERCP）　111 件
内視鏡的胃瘻造設術（PEG）　22 件
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）（食道）　8 件
ESD（胃）　56 件
ESD（大腸）　65 件
大腸ポリペクトミー　403 件
肝動脈化学塞栓術（TACE）　12 件
腹水濾過濃縮再静注法（CART）　26 件
外来化学療法　772 件
入院化学療法　66 件

循環器内科

第１循環器内科長　小野寺　洋幸

＜循環器救急診療＞

循環器疾患は救急患者が多いことが特徴です。当科は岩手県南の地域中核病院として専門的診療の必要な循環器疾患患者が来院、またはかかりつけの医療機関から紹介された場合、迅速に対応いたします。特に緊急性の高い急性心筋梗塞などに対しては 24 時間対応できるよう努力しております。

＜高度診療＞

心臓カテーテル検査を中心とした冠動脈疾患の精密検査、経皮的冠動脈インターベンション、ペースメーカー移植術などの高度診療を積極的に行い、エビデンスに基づいた質の高い医療を提供します。

＜動脈硬化性疾患の予防＞

二次予防の観点から動脈硬化の評価、食習慣・生活習慣の指導、糖尿病・高血圧症・脂質異常症など危険因子の管理・指導を行ない地域住民の健康増進をはかります。

＜病診連携＞

当科では上記のように救急診療や高度診療に力を注ぎたいと考えており、病状が安定した時点で紹介元や開業医の先生での治療継続を勧めております。なお、定期的な専門診療や病状が不安定化した際は当科で対応させていただくよう、連携を進めていきたいと考えております。

＜対象となる疾患＞

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、高血圧症、動脈硬化症　など

＜施設認定＞

日本内科学会認定教育関連病院、　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

＜診療実績＞（令和６年度）

冠動脈造影	73 件
経皮的冠動脈インターベンション	124 件
経皮的腎動脈形成術	0 件
恒久的ペースメーカー移植・交換術	46 件
大動脈バルーン・パンピング	23 件
下大静脈フィルター留置術	2 件
心嚢ドレナージ	0 件
心エコー	1,762 件

頸動脈エコー	18 件
腎動脈エコー	15 件
ホルター心電図	564 件
トレッドミル負荷心電図	121 件
心臓核医学検査	23 件
冠動脈ＭＤＣＴ	54 件
睡眠時ポリグラフィー検査	18 件

小 児 科

第１小児科長　丸山　秀和

＜特徴＞

当科は両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療の中核として一般外来、慢性外来、乳児健診、予防接種、時間外診療、および入院業務を行ってきております。診療応援をいただいております先生方にはこの場をかりて感謝申し上げます。

外来は、令和４年８月より一般外来は完全予約制に移行となりました。完全予約制への移行により患者に対して集中的に診療を行えるよう対応しております。今後も完全予約制の対応にて、患者一人一人に対してより集中的な診療を行っていくよう努めてまいります。紹介患者は対応いたしておりますので御相談下さい。

月曜日の午後は予防接種、水曜日は全日乳児健診（午前中は６～７ヶ月・１歳児健診、午後は１ヶ月健診）を行っており、その他午後は慢性疾患外来の診療を中心に行っております。

入院につきましては、気道感染症、急性胃腸炎等急性疾患や気管支喘息発作といった疾患の入院が多くを占めました。その他、熱性けいれん、てんかん、川崎病等様々な疾患の入院がありました。

両磐地区、奥州市や宮城県北の一部の小児医療につきまして、慢性疾患外来や入院業務を中心とした同地域における中核的な役割を担った医療を今後とも継続して提供していけるように心がけていきたく存じます。

＜診療実績＞（令和６年度）

入院患者延数	2,780 件	外来患者延数	6,941 件
当年度入院	674 件	新 患 数	936 件

新生児科

新生児科長　天沼 史孝

＜特徴＞

当院新生児科は両磐地方における基幹病院としてのみならず、岩手県奥州市から宮城県北(栗原市、登米市、気仙沼市)にわたる医療圏を有しています。

在胎 28 週からの新生児入院に対応しており、平成 23 年 4 月に岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営が開始されました。

コロナ禍となり 34 週からの新生児入院対応に変更しています。

より良い医療、安心、安全を提供するため週 1 回の新生児科、産婦人科および病棟スタッフとの周産期カンファレンスを開催し、周産期チームとしての意思統一を図っています。

＜対象となる疾患＞

早産児、低出生体重児、呼吸障害、感染症、新生児黄疸、低血糖症、先天性心疾患、染色体異常等の疾患

＜施設認定＞

日本小児科学会専門医研修関連施設
日本周産期・新生児医学会暫定研修施設
岩手県地域周産期母子医療センター

＜蘇生法講習会＞

毎年、1 回の日本周産期・新生児医学会認定の新生児蘇生法講習会(専門コース)と日々の蘇生の技術維持・向上のためスキルアップコースを開催しており、平成 27 年からは研修医必修の講習会に位置づけられ毎年たくさんのコース保持者を生み出しており、県内研修医や救命救急士、消防士の方にも参加して頂いています。

＜診療実績＞（令和６年度）

入院　835 人

超低出生体重児　3 人	極低出生体重児　6 人	低出生体重児　78 人
新生児黄疸　40 人	感染症　50 人	低血糖症　0 人
先天性心疾患　4 人	染色体異常　0 人	その他　654 人

外来 499 人（新患 17 人）

シナジス接種適応患児	44 人
その他、慢性外来(健診・予防接種など)	4,833 人

＜スタッフ紹介＞

医師名	専門分野	主な資格
天沼　史孝	新生児医療	日本小児科学会認定医・専門医　認定小児科指導医
		日本周産期新生児医学会　新生児蘇生法　NCPR インストラクター
		日本ＤＭＡＴ隊員　　災害時小児周産期リエゾン
		ＩＣＤ制度協議会ＩＣＤ(感染コントロールドクター)
		厚生労働省　臨床研修指導医

外　科

副院長　　桂　一憲

当科は、「がん診療連携拠点病院」を標榜している磐井病院にあって、消化器系、乳腺甲状腺の悪性疾患の診療を行っております。最新の癌治療ガイドラインに則った手術治療、化学療法(免疫療法を含む)、放射線治療など、「がん」の集学的治療を担っております。消化器疾患については、消化器内科と協力し、最適な医療の提供に努めております。

内視鏡外科手術などの低侵襲手術にも積極的に対応しております。

鼠径ヘルニアや胆嚢結石症などの良性疾患、急性虫垂炎や胆のう炎、腸閉塞などの緊急手術が必要な疾患についても、麻酔科と協力し、救急対応を行っております。

① 胃癌、大腸癌、食道癌、肝腫瘍、肺腫瘍、ヘルニアなどの鏡視下低侵襲手術が可能なスタッフが揃い、より高度低侵襲な手術の提供を目指しております。
② 乳癌は、月 3 回（令和 7 年 4 月からは月 2 回）、東北大学総合外科乳腺内分泌外科、石田孝宣教授他 2 名の診察が行われ、最新の知見による乳癌治療を行っております。
③ 石岡千加史教授（東北大学腫瘍内科）及び下平秀樹教授（東北医科薬科大学腫瘍内科）の各月 1 回の腫瘍内科外来診察があり（下平教授は令和 6 年 12 月まで）、最新の知見に基づいた化学療法を指示いただいております。また、難治性の腫瘍については、東北大学などの高次医療機関の治験にも参加しております。
④ 化学療法に経験のある医師を揃え、最新の免疫チェックポイント阻害薬、分子標的治療薬についても多数の患者への使用経験があります。
⑤ 胆沢病院血管外科チームと協力し、急性の血管病変にも対応しております。

＜診療実績＞：2024年手術件数（2024年1月-2024年12月）　()は内視鏡手術

総手術件数		670 件	緊急手術		116件
成人ヘルニア【15歳以上】		113（31）件	結腸癌		72（51）件
小児ヘルニア		0件	直腸癌		25（15）件
内分泌	甲状腺悪性腫瘍	1件	肝臓悪性腫瘍		22（3）件
	甲状腺良性腫瘍	6件	膵臓	膵頭十二指腸切除	4件
乳腺	乳癌（温存）	16件		その他の膵切除	4件
	乳癌（全摘）	18件	胆道	胆嚢摘出	87（72）件
呼吸器	肺悪性腫瘍	0（0）件		悪性腫瘍	1件
食道癌		2（2）件	虫垂切除		33（33）件
胃腫瘍(癌)	全摘	11（0）件	腸閉塞		53（16）件
	部分切除	23（18）件	汎発性腹膜炎		5（1）件
	GIST･その他	0（0）件	外傷による開腹手術		0件

ⅰ)充分な、インフォームド・コンセントのもと、進行癌についても、十分な根治性を維持しつつ、内視鏡手術適応を拡大し、より低侵襲手術を提供するため、外科医の技術修練を継続いたします。

ⅱ）高齢患者の手術にも低侵襲な治療を選択し、かつ、地域の医療機関、介護施設との連携を密にし、患者の意に沿う治療法、治療場所を提供いたします。

ⅲ)PFM（患者フローマネージメント）を多職種で進め、術前術後患者の早期回復を目指します。

整形外科

第１整形外科長　中村　聡

＜特徴＞

整形外科では、いわゆる「運動器」の疾患・外傷を扱っています。首から下、足の先までの骨、関節、筋肉、神経などが対象になります。

現在の常勤医師は６名で、うち３名（昨年度は４名）が日本整形外科学会認定の専門医資格を持っています。外来は月・火・水・木の午前に行っています。完全予約制ですが、予約されていても急患対応や緊急手術などでお待たせすることがあります。金曜日を主な手術日としていますが、平日は毎日手術を行っているのが現状です。

交通事故、労災事故、転倒による外傷など、手術が必要になりそうな患者さんは基本的に全て受け入れており、良好な機能回復を目指して手術を行っています。手術は年間約 900 件行っていますが、両磐地区ほぼすべての整形外科手術と、胆江地区の脊椎手術も行うため、手術件数が年々急速に増え続けており、今年度も昨年度に次ぐ過去２番目となる 878 件の手術を行いました。最も多いのは高齢者の転倒による大腿骨転子部/頸部骨折です。高齢者は内科的な疾患を合併している人も多いのですが、他科の協力も得て、できる限り安全に手術を行うように努めています。また、この骨折ではリハビリを含めて一般的に２ヶ月前後の入院が必要になりますが、急性期病院の当院では長く入院することが困難です。そこで、「大腿骨頸部骨折地域連携パス」を導入し、地域のリハビリ入院ができる複数の医療機関と連携し、より高いレベルまで回復できるように取り組んでいます。

2020 年度からは脊椎外科医が着任し、脊椎疾患（頚部脊髄症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア等）の手術治療も行っています。2 椎間までの頚椎、腰椎疾患に対しては脊椎内視鏡による低侵襲手術を行っています。

2022 年から関節外科専門医が着任し、県内外から多くの患者が来るようになり、人工関節手術、関節鏡手術の件数が増えています。股関節手術（人工股関節置換、人工骨頭挿入）は術後脱臼のリスクが少ない仰臥位前方アプローチで行っています。

2020 年 12 月に、腰椎、大腿骨 DEXA による骨密度測定装置を新規導入しました。骨粗鬆症の診断、治療、骨折後の２次骨折予防のための治療強化などにも力を入れて取り組んでいます。

入院病床が限られるため、日常生活が不自由な状態での通院治療や、早期退院をお願いせざるを得ない場合があります。諸事情をご賢察の上、ご理解とご協力をお願い致します。

＜手術実績　878 件（令和６年度）＞

骨折観血的手術	266 件
人工骨頭挿入術	42 件
人工関節置換術	161 件(うち股関節 78 件　膝関節 82 件　うち両膝同時 0 例)
関節鏡手術	47 件
脊椎手術	169 件（うち脊椎内視鏡手術 83 件）
その他（抜釘　手根管開放術　腱鞘切開　アキレス腱縫合など）	193 件

脳神経外科

第１脳神経外科長　高橋　昇

＜特徴＞

当科では手術の必要な脳疾患や頭部外傷を中心に、広く地域医療に貢献することを目標としています。

＜対象となる疾患＞

脳卒中のうちくも膜下出血と脳出血、外傷は脳挫傷などの頭蓋内出血、慢性硬膜下血腫が入院患者の多数を占めます。外来診療では手術後の患者さんの経過観察や、かかりつけ医の先生方からの紹介による脳疾患の精査を行い、神経膠腫などの大がかりな治療が必要な患者さんには大学病院などへの紹介も行っています。

また、専門外来として難治性てんかんの患者さんの治療を行っています（東北大学てんかん科：１ヶ月に１回）。

＜設備＞

診断機器：ＭＲＩ、ＣＴ、ＤＳＡ、ガンマカメラ、脳波計

手術機器：手術用顕微鏡（蛍光血管撮影つき）、定位脳手術装置

＜手術件数＞（令和６年度）

脳腫瘍摘出術	0 件
脳動脈瘤クリッピング術	2 件
脳内血腫開頭摘出術	0 件
慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術	74 件
水頭症手術	0 件
外傷性頭蓋内出血（開頭）	0 件
その他	34 件

＜施設認定＞

日本専門医機構研修プログラムによる研修施設（関連施設）

＜スタッフ紹介＞

医師名	役　職	資 格 等
高橋　昇	第１脳神経外科長兼リハビリテーション科長	脳神経外科専門医
菊池　登志雄	第２脳神経外科長	脳神経外科専門医
鮠名 勉	非常勤	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医
藤原　和則	非常勤	脳神経外科専門医 日本頭痛学会認定指導医

形成外科

参与兼形成外科長　本庄 省五

＜特徴＞

形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損あるいは整容的な不満足に対して、「あらゆる手法や特殊な技術」を駆使し、機能のみならず形態的にもより健常に、より美しくすることによってみなさまの生活の質 ″Quality of Life″ の向上に貢献する、外科系の専門領域です。

当院の形成外科は、県立病院では2番目に設置され、日本形成外科学会の研修認定施設に認定されています。

＜対象となる疾患＞

口唇裂口蓋裂症・眼瞼下垂症などの顔面先天異常、手足の先天異常、顔面骨骨折などの顔面外傷、皮膚悪性・良性腫瘍の切除と再建、切断指再接着を含む手の外科、褥瘡・難治性潰瘍、熱傷、瘢痕拘縮・ケロイドなど、関連各科・大学病院と協力・連携を保ちながら幅広く診療を行っています。

＜診療内容＞年間手術数は300例

★口唇裂・口蓋裂症は、周辺医療機関の認知度の上昇とともに患者数も増加傾向にあります。大学病院での約20年の経験を踏まえ積極的に治療にあたっています。関連各科と協力し、岩手医科大学の矯正歯科で生後早期から術前顎矯正を行い、生後3ヶ月前後で口唇形成術、1.5歳前後に口蓋形成術、10歳前後で歯槽裂部骨移植、高校生以降に最終的な修正を行っています。

★眼瞼下垂症は先天的な下垂の治療はもとより、最近はご高齢の方やコンタクト・レンズの長期間の使用による下垂症が増加してきています。まぶたが開きにくくなるため額にしわを寄せ、眉毛を挙げてものを見ようとするので、特有の顔貌となります。またこれが、肩こりや高血圧など他の疾患の誘因になっているとも言われています。比較的低侵襲の手術で治療効果が大きいので、高齢者の方にも施行可能です。

★顔面外傷の治療は、軟部組織損傷では目立つ傷跡が出来るだけ残らないように治療しています。骨折でも皮膚切開線ができるだけ目立たないように配慮し、骨折固定用プレートはあとで抜釘する必要のない、溶けて無くなる吸収性プレートを積極的に使用しています。

★手足の先天異常では、1歳前後の小児の患者さんが中心となるため、安全な治療を第一に心がけています。また合指（趾）症では術後整容的に問題となる植皮術の必要のない皮弁法を用いています。

★手足の外傷は軟部組織損傷、骨折、腱損傷が多く、切断された指を手術用顕微鏡下に再接着する切断指再接着術にも対応しています。

★皮膚・皮下組織腫瘍は良性 76 例、悪性 24 例を治療しました。特に顔面の皮膚悪性腫瘍は、外科的治療による生存率の向上はもとより、できるだけ健常に近い顔貌になるよう形成外科的な手法を駆使して再建に努めています。

★褥瘡・難治性皮膚潰瘍の治療は、手術症例のみならず高齢者の褥瘡、内科的潰瘍を最新の創傷治癒理論に基づく治療で成果を上げています。また、褥瘡予防対策委員会を設け、看護科、薬剤科、栄養科、リハビリ科と協力して活動し、予防にも力をいれています。

＜施設認定＞
　日本形成外科学会　教育関連施設（専門医取得可能）

皮 膚 科

皮膚科医長　土橋　りさ

＜診療科の特徴＞

先端医学技術を駆使して診断にあたる時代ですが、皮膚疾患の診断は“百聞不如一見”。まずは目で診て、手で診る（触れる）、耳で診る（聞く）、あるいは嗅いでもみるという五感が最たる診察道具です。生まれてから人生を全うするまでのあらゆる年齢層の頭のてっぺんから，足のつま先までの皮膚病変を扱います。

＜対象となる皮膚疾患＞

外来ではアトピー性皮膚炎、接触皮膚炎などの湿疹皮膚炎、天疱瘡、類天疱瘡などの水疱症、皮膚悪性腫瘍、伝染性膿か疹、帯状疱疹、カポジ水痘様発疹症などの感染症、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎などの膠原病、さらには乾癬、薬疹、脱毛症、真菌症など多岐にわたる皮膚科全般疾患を診療します。薬物療法の他に紫外線療法、アレルギー検査、皮膚生検など随時行っています。表皮のう腫の切除手術や巻き爪の治療も行っております。

＜診療実績＞（令和６年度）

有棘細胞癌	11 件
悪性黒色腫	5 件
その他の皮膚がん（基底細胞癌・Paget 病など）	6 件
１日平均外来患者数	26.9 人
１日平均入院患者数	0.3 人

泌尿器科

泌尿器科長　藤島 洋介

＜特徴＞

当科では、腎臓、副腎、膀胱、前立腺、精巣などの泌尿器系臓器の良性疾患や癌、尿路結石症、陰嚢疾患、尿路感染症、小児泌尿器科疾患の治療、血液透析管理を行っています。特に前立腺肥大症に対するホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）・経尿道的水蒸気治療（WAVE）・経尿道的前立腺尿道吊り上げ術（PUL）、尿路結石に対するレーザー治療に力を注いでいます

＜対象となる疾患＞

前立腺肥大症、尿路結石症、腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍、副腎腫瘍、尿路感染症、停留精巣、腎不全、シャント機能不全など。

＜診療内容＞

１　前立腺肥大症

前立腺体積や病状に応じて HoLEP・WAVE・PUL を選択できます。HoLEP は従来の前立腺切除術と比較して出血が少ない、治療効果が高く再発率が低い等の利点がありますが、岩手県内では唯一当院で常設施行しています。WAVE は前立腺中葉肥大を伴う 80cm^{3}以下の体積の方で、全身麻酔リスクのある方の低侵襲治療選択肢としています。PUL は、前立腺中葉肥大を伴わない比較的体積の小さめの方で、全身麻酔リスクのある方の低侵襲治療選択肢としています。

２　腎癌／腎盂尿管癌

岩手県立病院では数少ない日本泌尿器科内視鏡･ロボティクス学会腹腔鏡技術認定医が在籍し、主に腎癌や腎盂尿管癌に対する腹腔鏡手術を行っています。当院では 2020 年から 3D 内視鏡を使用した腹腔鏡手術を開始し、精度が高く合併症の少ない安全な手術を行っています。

３　尿路上皮癌（膀胱癌、腎盂癌、尿管癌）

膀胱癌に対する、第 3 世代光線力学診断用剤 5-アミノレブリン酸(5-aminolevulinic acid: 5-ALA) を用いた光線力学診断(photodynamic diagnosis: PDD)を 2020 年から標準的に用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術を行い､精度の高い手術治療を行っています｡抗癌剤治療についても、保険適応となっている新規薬剤やレジメンを積極的に採用しています｡大学病院などの高次医療機関と連携し、必要に応じて患者さんの地元での治療継続も可能としております。

４　前立腺癌

当院ではプロステートヘルスインデックス(phi)による評価を採用しており、前立腺針生検が必要な方を絞り込んで行っています｡強度変調放射線療法(IMRT)の寡分割照射を行っており、治療精度向上や放射線性合併症の予防のため､前立腺金マーカー留置術と放射線治療用吸収性組織スペーサー留置術を行っています｡ロボット支援腹腔鏡下手術や粒子線治療が適応となる患者さんについては、必要に応じて近隣または県内外の各病院などをご紹介しています。病状

に応じて、前立腺癌の遺伝子検査であるBRCA1遺伝子･BRCA2遺伝子検査（BRACAnalysis診断システム）を行っており、院内で開設している遺伝カウンセリング外来ではご家族のご相談に対応しています。

5　尿路結石症（腎結石、尿管結石、膀胱結石）

2018年よりMOSES system™を実装したホルミウムレーザーLumenisパルス120Hを用いた経尿道的内視鏡手術を導入し、TULやPNLなどの標準的な内視鏡手術に加え、高難度のECIRS/TAP手術も行っています。

6　腎不全

2020 年から末期腎不全患者さんの血液透析導入・管理、経皮的内シャント拡張術を行っています。血液浄化療法として免疫吸着療法、血漿交換療法にも対応しています。

＜施設認定＞

日本泌尿器科学会専門医教育施設

＜診療実績＞（2024年１月～12月）

膀胱癌	尿路内視鏡手術	33件	尿路結石症	TUL/TUVL	35件
	開腹手術	1件		開腹手術	1件
腎癌/腎盂尿管癌	腹腔鏡手術	2件		ECIRS/TAP	3件
	開腹手術	1件	陰嚢手術	精巣固定術	2件
前立腺癌	開腹手術	1件		陰嚢水腫	7件
	金マーカー	34件	包茎	包茎手術	3件
	スペーサー	34件	腎不全	内シャント設置術	15件
	前立腺生検	90件	その他	膀胱部分切除術	2件
前立腺肥大	HoLEP	19件		尿路変向術	15件
	PUL	20件		膀胱鏡検査	694件
	WAVE	15件		尿管ステント	115件
間質性膀胱炎	膀胱水圧拡張	3件		その他手術	42件

＜研究実績＞

１，古田 昭，藤島 洋介，五十嵐 太郎，川野 将太，占部 文彦，木村 高弘．【前立腺肥大症治療のパラダイムシフト】前立腺吊り上げ術(UroLift 2)の tips & tricks. 泌尿器外科(0914-6180)37巻2号 Page134-139(2024.02)（共著者）

2, Anan G, Minami H, Fujishima Y, Kaga K, et al. Efficacy and safety of prostatic urethral lift according to preoperative urinary retention and prostate volume: A Japanese real-world multicenter data. Int J Urol. 2025 Feb;32(2):190-197. doi: 10.1111/iju.15621. Epub 2024 Nov 5.　（共著者）